

「学びの型」×「一歩踏み出す勇氣」で「奈良を変える」

株式会社奈良クラブ 奈良県奈良市

JFL 所属のサッカークラブを擁する奈良クラブは、2018 年 11 月に体制を刷新。新設された株式会社がクラブの運営を担うこと、株式会社中川政七商店の中川政七会長が新会社の社長に就任することが報道され、大きな話題を呼んだ。

新たに掲げたビジョンは「サッカーを変える 人を変える 奈良を変える」。そのために優秀な若手人材を GM に招聘するとともに、「学びの型」と「一歩踏み出す勇氣」で変革を推進。チームの成長を図りつつ、学びをテーマとして奈良全体の活性化を目指している。

中川社長は「奈良クラブの成長する姿を見せて地域に勇氣を与えるとともに、知的刺激に満ちた『学びの都』の実現に向け、新風を吹き込む企業を興す起爆剤になりたい」と語る。

会社概要



会社名：株式会社奈良クラブ
所在地：奈良市神殿町 667-1
ウズシオパーク 1F
電話：0742-93-3815
FAX：0742-93-3816
創立：1991（平成 3）年
設立：2018（平成 30）年
代表者：代表取締役社長 中川 政七
事業内容：サッカークラブ運営、スクール事業、地域活性化事業等
（NPO の活動を含む）
URL：http://naraclub.jp/



ホームグラウンド「ならでんフィールド（鴻ノ池陸上競技場）」

工芸品の救世主、サッカークラブ経営に参画

1991 年創立のサッカークラブ・都南^{となん}クラブを前身とする奈良クラブは、元 J リーガーの矢部次郎氏（現同社副社長、NPO 法人奈良クラブ理事長）によって、2008 年に現名称に改称した。

2015 年に JFL（日本フットボールリーグ）に参入したものの、その後は成績が伸び悩み、2018 年 11 月に体制を刷新。クラブを運営する株式会社を新設し、新会社の社長に中川政七氏が就任することが報道され、大きな話題を呼んだ。

中川社長といえば、家業の中川政七商店を継ぎ、「日本の工芸を元気にする！」をビジョンに掲げ、工芸品業界に SPA（製造小売）モデルを導入。自社の売上高を 16 年間で 13 倍に拡大させるとともに、厳しい環境にある全国の工芸品産地企業を立て直し、「ポーター賞」や「日本イノベーター大賞」を受賞した工芸品の救世主として知られる。

中川社長は「総合型地域スポーツクラブとしてコミュニティの中心になる」という奈良クラブの理念に共感し、かねてユニフォームのデザインや経営アドバイス等を通じて奈良クラブを支援。本業に一区切りがついたことを契機に、中川政七商店の経営を後進に任せ、本格的にクラブ経営に参画した。

新たに「サッカーを変える 人を変える 奈良を変える」をクラブビジョンに掲げ、学びをテーマとして奈良全体の活性化を目指している。

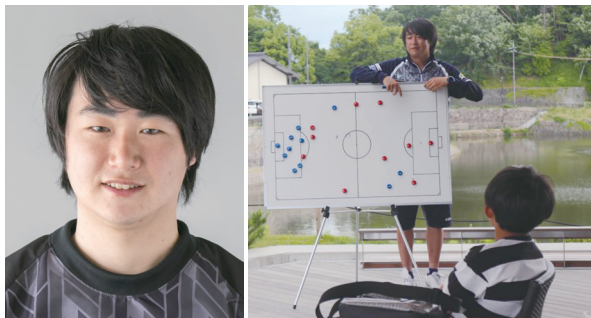


エンブレム（左）、新たに作成されたロゴ（右）

サッカーを変える：優秀な若手をGMに抜擢

「サッカーを変える」第一手は、当時 23 歳の林舞輝^{まいき}氏を GM（ゼネラルマネージャー）に招聘したこと。選手としての実績が重視される日本では異例の人選と言えるが、ドイツなどでは情報端末を片手にデータを分析し戦術を操る、若手の「ラップトップ監督」が活躍している。

林 GM は、イギリス留学を経て、サッカー指導者育成の最高峰の一つ、ポルト大学スポーツ学部の大学院に入学し、ポルトガルのプロクラブ下部組織でコーチを務めた。抜擢したのは、データを読み解き、サッカーを体系的に理解できる稀有な人材と見込んでのことである。



林 GM（左）の試合後生解説はソシオ会員だけの特典（右）

人を変える：「学びの型」と「一歩踏み出す勇気」

中川社長は、これまでの経験から、成長に向けては常に新しいことを学び続ける必要があり、そこには普遍的で効率的な「学びの型」が存在することに気づいた。例えば、最初に「何のために学ぶのか」という価値を見出すと同時に、一流を手本として自身に足りない点を認識し、PDCA サイクルを回すというスキルを体得すること。それは、その後の人としての成長を大きく左右する。

もう一つは「一歩踏み出す勇気」。できない人は、初めから自分には無理だと思い込み、諦めているケースがよくある。できるためには、まずそのマインドから変えることが必要という。

こうした「学びの型」と「一歩踏み出す勇気」の先に目指すのは「自ら知り、自ら決め、自ら立つ」人づくり。他責ではなく、自責思考で自律し

た個人への変革を促していく。

奈良クラブに携わる全員に向けた共通の学びの場「N.ROOM」も特徴的である。そこでは、中川社長、林 GM、外部講師が交代で講師として演台に立ち、ビジネスに役立つコミュニケーションスキルからサッカーの戦術論まで、様々なメニューをスタッフと選手が同じ机で学ぶもの。単なる研修とは異なり、「学びの型」を実践し身につけるための取組の一つである。

奈良を変える：学びをテーマとした地域活性化

奈良クラブが目指すのは、これら「学びの型」と「一歩踏み出す勇気」を実践して伝え、地域に「自分たちも変わるかも」と思えるような成功例を生むこと。当面の課題である J3 昇格に向けてクラブは変革の只中にあり、選手やスタッフの間には「まず自分たちが変わらなければ」という強い思いが芽生え、日々着実に成長しているという。

「奈良クラブというパブリックな存在が J リーグを目指して成長する姿を見せ、地域に勇気を与えたい」という中川社長。奈良の活性化にける想いは並々ならず「奈良を熱くする企業や事を成す人に向けて『志』や『ノウハウ』を伝え、新風を吹き込む企業を興す起爆剤になりたい」と語る。

一例を挙げれば、自身がホストとなり各界の有識者を招いて行う講演会「N.SEMINAR」を開催、経営者向けに新たな考え方に接する場を設けている。また、学びを起点に発展するまちづくりを通じて県内活性化を図る「N.PARK PROJECT」を推進、現在ならまちで具体的なプロジェクトをスタートさせるべく準備を進めている。南都銀行と協力し、魅力的なコンテンツを生み出せる人材を育成、地域ブランディングにつなげる構想もある。

中川社長は「感度の高い人が集まることで世界的に有名な米オレゴン州・ポートランドのように、奈良を知的刺激に満ちた『学びの都』にすることが夢」といい、「これからの仕事人生すべてを奈良のために投入したい」と意気込みを語る。

（太田宜志、吉村謙一）